

” ペデジャーなる ” Web

OB・OGと現役生を結びながら、懐かしさと新しさ香るつくばの風を、季節の便りとしてお届けしていきます。

” ペデジャーなる ” 2013年冬号前編

2013年2月1日



筑波大学メールマガジン “ペデジャー - なる ” 2013年冬号前編

OB・OGと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。



1 今昔ペデ南下旅

お待たせしました！連載再開です。今回訪れたのは体芸エリア。今昔の写真を比べてみました！

2 帽子？それとも・・・

軽い気持ちで取る人も多い教員免許。それでも逃れられない教育実習。大変だけど、気づかされることも多いのです。

3 帰省も大変

ちょっと違う所に住んでいるうちにその土地の人になってしまうことって、ありますよね。

4 アメリカ生活のとある一日

アメリカ留学中の河原編集員からのレポート！1日は24時間だよ。当然だよ！.....あれ...？そんな一日。

5 ペデあぶるーど

今回はクリスマスのウィーンとヴィリニユス！ヴィリニユスってどこだかご存知ですか？

6 スノードロップ

何かとイベントの多い冬。その中でもクリスマスは別格ですよ！筑波大学の恋人たちのクリスマスとは...？

1 今昔ペデ南下旅



みなさん、お久しぶりです。冬真っ盛りですね！寒いが続いていますが、風邪など引いていないでしょうか。前回お休みした南下旅ですが、この冬号からまた復活です。これからもどんどん南下していくので、今年もどうぞよろしくをお願いします。

さてさて、今回は大学会館・体芸エリアにやってきました。このエリアは筑波大学の中でも初期の頃に建てられた、歴史ある場所です。ということで、創刊号のように当時の写真と今の写真を比べてみることにしました。

最初の写真は保健管理センター前から大学会館付近を見た写真です。郵便局や保健管理センターの場所は今とほとんど変わりませんが、ペデには大きな変化があります。この写真の後ろ側には外国語センターがあるのですが、そこへ繋がる道は階段のみで、ペデはまだ半分だけです。当時はまだ自転車で移動する学生は少なかったのでしょうか。それとも別のルートがあったのでしょうか。こんなに広い学内はさすがに徒歩では大変ですよ...。ちょっと気になるところです。



こちらは大学会館入り口前からATMの方を撮った写真ですが、明らかに違うところがありますよね。そうです、現在は左手の方に留学生センターが建っているのです。この建物があるのとないのとでは、雰囲気は全然違いますね。この写真を最初に見たとき、どこだか全くわからなかったくらいです。今では筑波大学にやって来る留学生の数も増え、どこに行っても留学生の姿を目にします。大学生活3年目も終盤ですが、つくづくグローバルな大学だなと改めて思うのです。



当時と大きく変化した2つの写真とは違って、こちらの写真は当時とほとんど変わらない場所。外国語センター近くから5C棟を写しました。筑波大学の始まりがここだと考えると、普段は何とも思わない5C棟でも貫禄ある建物に見えるから不思議ですね。筑波大と言えば体育のイメージが一つにありますが、去年は筑波大の関係者のみなさんが大活躍した年でした。こんな素晴らしい方々が私たちの先輩だと考えると、自分が筑波大生ということ誇りに思いますね。



そして今年も、年明けからラグビー部が魅せてくれました！国立大学としては初となる、全国大学選手権への決勝戦進出！結果は準優勝でしたが、多くの人が感動した一戦となったでしょう。先日始まった日本選手権での活躍も期待ですね。皆さんに負けないように、私も頑張らないと！

そろそろ筑波おろしが吹き始める頃です。自転車に乗るのがツライ！ですがこれも筑波大生の宿命。マフラーに顔をうずめつつ、まだ遠い春の訪れを待ちます....

(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 亀川かすみ)

2 帽子？それとも・・・



大学で取得できる免許の代表として教員免許がありますね。

とくに筑波大学は東京師範学校からの歴史もあり、教育に関してかなり専門的だと思います。せっかく大学にきたのだから、何か資格がほしいなぁ...と軽い気持ちで教員免許をとろうとする方もいれば、絶対に教員になるんだ！と熱意が漲っている方などモチベーションは様々ですね。みなさんの中にも教員免許を取得した方、途中で断念した方...様々だと思います。私も、「せっかくだからとっておこう～」と軽い気持ちで始めたのがきっかけです。そしてついに先日最大の山場である教育実習に行ってきました。そのことについてちょっとお話ししようかなと思います。

みなさんは“子どものころの気持ち”を覚えていますか？私はすっかり忘れてしまっていたことを、教育実習を通して気づきました。今回は特別支援学校で小学部5年生の担当になったのですが、

小学校生活ってこんなに走ってたっけ？

1時間の授業が短すぎ（45分間です）！

教室掃除が面倒くさい！

毎日牛乳飲んでたな～。

ドッジボール強すぎ！

なんて自分の小学生時代と重ね合わせて色々思い出していました。

文化祭はどの順番で見て回ろうかなあ

今日の体育は何をやるのかなあ

道に咲いているお花がきれい！

校庭の木は何メートルなんだろう・・・

というのはとっても大事なことなのです。

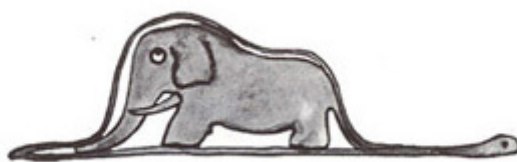
今の自分に置き換えると、新しい服を着て出かけるときの喜びみたいなものが小学生の生活にはたくさんあるのです。それはとっても大切なことで、でもそれは大人になるにつれて大切じゃなくなってきちゃうんだなあと感じました。そういうことを大切にしている自分が、ある瞬間になんとか恥ずかしくて、子どもっぽく感じてしまって、無理して見ないふりするうちに大切じゃなくなっちゃうんだと思います。

そんなとき、「星の王子さま（サン＝テグジュペリ作）」のお話を思い出したので、私の好きな部分をちょっ

と紹介します。



「ぼくは、鼻たかだかと、その絵をおとなの人たちに見せて、〈これ、こわくない?〉とききました。すると、おとなの人たちは〈ぼうしが、なんでこわいものか〉といました。



ぼくのかいたのは、ぼうしではありません。ゾウをこなしているウワバミの絵でした。おとなの人たちに、そういわれて、こんどは、これなら、なるほどわかってくれるだろう、と思って、ウワバミのなかみをかいてみました。おとなの人ってものは、よくわけを話してやらないと、わからないのです。

おとなの人たちは、外がわをかこうと、内がわをかこうと、ウワバミの絵なんかはやめにして、地理と歴史と算数と文法に精をだしなさい、といました。」

みなさんはこの絵、何に見えましたか？

この絵を見て「帽子」としか答えられなくなってしまった、“子どもころの気持ち”を知らない間に忘れていた自分に、ふと気づく瞬間があるのです。私は今回何度もその瞬間に遭遇しました。

こんなことが、私の教育実習で一番の印象です。これから社会に出て、教師になってもならなくても、「帽子」じゃなくて「ウワバミ」かもしれない、と思えるような大人でいたい、と思います。

(人間学群 障害科学類 岡山未季)

出典：サン＝テグジュペリ、内藤濯訳『星の王子さま』岩波書店、1953年、8～9頁

3 帰省も大変



私のふるさとは中国の吉林省です。北朝鮮と近隣しています。冬になると、すごく寒くなります。12月のふるさとはもうマイナス27度になりました。日本のみならず、たぶん想像できない寒さだと思います。私は秋休みの一週間に帰省しました。筑波大学の秋休みのときにふるさとがもう完全に冬になりました。なので、帰る前に服を何枚着れば寒くないかということはずっと悩んでいました。20年間暮らしてきたふるさとなのに冬の寒さを心配するのがおかしいですね。自分にもこんな心配をなかなか納得できません。



そして、いよいよ出発になりました。実家に近い空港なら、瀋陽（シンヨウ）の桃仙（トウセン）空港です。近いといっても、瀋陽から実家まで電車で16時間がかかります。つくば市の駅から瀋陽の桃仙空港まで、わずか5時間しかかからなかったです。それにしても、スムーズに電車に乗れば、ラッキーだと思いました。しかし、つらい旅はこれからです。中国の広さと人口の多いことが今回改めて実感しました。瀋陽の桃仙空港から空港バスに乗ったけど、なかなか瀋陽駅に着かなかったです。普段車で40分ぐらいしかかからないが、今回は倍の時間以上がかかってしまいました。そこから、私はいろいろしてきました。

やっと瀋陽駅に着いたが、7月1日に瀋陽駅の出入口が西広場に引っ越したという看板が目に入った途端、完全にあわてました。私は瀋陽に行ったことがありますけど、そこまで詳しくないです。タクシーを呼んだけど、乗りた



かった電車に間に合わなかったです。中国の電車の時間と日本と違って、毎日同じ行き電車の本数が少ないです。切符の売り場も電車の乗り場と離れています。私は重い荷物を持ちながら、あちこち走っていました。こんな寒い冬の中に私が誰よりも熱かったです。幸い、次の電車に間に合ったけど、乗る人が多くて、立つ場所もなかったです。その時の私は泣きたいほど落ち込んでいて、何でこんなについてないなと自問しました。でも、降りる人がだんだん増えていて、寝台列車の切符を補うことができました。この旅はやっと落ち着きました。ずっとバタバタしていた私は電車の通った景色を気付かなかったです。なので、外の景色を見た瞬間にホットしました。こんなきれいな銀色世界を見て、どんなに疲れても、忘れたいと思います。

今回の帰省は大変だったけど、日本にいる間になかなか見られない雪の世界と出会って、すごくわくわくしました。

（人間総合科学研究科 教育学専攻 于森）

4 アメリカ生活のとある一日



2012年11月4日日曜日、大学を休学しアメリカに来ている私は、サンフランシスコのアパートで目が覚めた。週6日学校に行っている私にとって、日曜は唯一目覚ましをかけずに起きられる日。目が覚めるとカーテンから漏れる太陽の光がまぶしくて、いつも起きる時間帯とは明らかに違う。少し寝過ぎちゃったかな。枕元の携帯で恐る恐る時間を確認すると・・・なんとまだ8時前。まだ早いな。よかった。いや、待てよ。なんかおかしい。昨日あんなに疲れてたのに、目覚ましもかけなかったのに、こんなに早く起きられるわけがない。そうだ。寝ぼけた頭でようやくその日がサマータイムの終わりだったのを思い出した。

アメリカには夏時間と冬時間があり、夏時間終了日の午前2時に時計の針が1時間遅らされます。つまり、「1日が25時間だったらいいのに」が現実になる、忙しい人にとっては夢のような日。私の貴重な1時間（+ ）は不覚にも二度寝に消えましたが、計画次第で、溜まっていた仕事を片づけたり、いつもよりちょっと遠くに足をのばしてみたり、いろいろな過ごし方ができそうですね。みなさんは1日25時間あったらどのように過ごしますか？

(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 河原一愛)

5 ペデあぶろーど



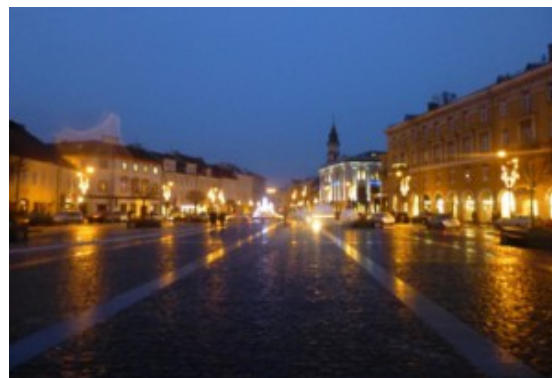
寒い日が続き、外に出る気力もなくなってくる季節ですが、旅行はどの季節でも楽しいですよ。ということで、わたしはこの冬ヨーロッパに行ってきました。この記事では行った国の中でも、私が特に気に入った2箇所を紹介します。

まず、音楽の都として有名なウィーンに行ってきました！音楽の都だけあって、あちこちに有名な音楽家の像がたっていました。また、私がウィーンに行ったのはちょうどクリスマスの時期だったので、あちこちでクリスマスマーケットをやっていました！ヨーロッパのクリスマスって素敵なんだろうな、とは思っていましたが、やはりウィーンのクリスマスは本当に素敵でした。クリスマスマーケットではクリスマスツリー



に飾るためのオーナメントや、見た目も可愛いお菓子や、ホットワインなど、いろいろなものがそれぞれ写真のような小さな小屋で売られていました。日本のお祭りの屋台と、雰囲気は似ていて、来ている人もその場で食べたり飲んだりしながら話したり、買い物を楽しんだりしていて、とても楽しい場所でした！

次にリトアニアの首都、ヴィリニウスについて紹介します。リトアニアってどこにあるかみなさんわかりますか？バルト3国の1つであるリトアニアは、ヨーロッパの中でもかなり北のほうにあるため、冬はマイナス20度くらいに達することもあるとっても寒い国なのです。だから私も覚悟していきました・・・が、私がリトアニアについた時、なぜか偶然いつもより暖かかったのです！



昼間は普通に晴れていて、気温も0度くらいで、日本の冬と同じような感じでした。寒くないのは助かったけど、北欧の寒さを体験できなかったのは残念・・・。

ヴィリニウスはとても小さく可愛い町で、1日あれば観光が終わってしまうようなところでした。でもそれだけ人のつながりも深いようで、お店の人たちもフレンドリーでした！道端に観光客向けのお土産屋さんのテントや、毛糸の帽子や手袋などを売っているテントなどがたくさんあったのですが、その人たちがリトアニアのことをいろいろ話してくれるので、私も買い物をしながらすっかり話し込んでしまいました。

やはり海外に行くとなんか素敵なものを発見できますよね！また行きたい！と思える国に出会えて、とても幸せな旅になりました！

(社会・国際学群 国際総合学類 篠木菜月)

6 スノードロップ♡



筑波大生の恋愛事情連載第2号は、筑波大生のこの日にクローズアップ！

新しい年を迎える前に、日本中の若者が（若者だけじゃないと思いますが）楽しみにして止まない日がありますよね。そう！カップルの三大イベント（ ）の一つ！クリスマス！お互いを思ってプレゼントを選び、素敵な時を大切な人と過ごしたいと思う...そんな日です。ただし、筑波大学の4年生にとってはそうでもないらしい（笑）何とんでも卒論の提出が近いため、そちらを優先してしまう人も少なくないようです。文系はクリスマス前後に提出ですが、理系はだいたい年明けに提出。卒論を書くべく、クリスマスも返上せねばならぬとか。4年生同士のカップルならまだ痛み分け（？）的な部分があるのですが、学年が違うカップルはそうもいきません。前号で、男性の方が年上のカップルが多いよだとのレポートをさせてもらいましたが、私も例にもれず、卒論が忙しいと言われてしまった口です。愛が足りーん！と思いつつも、応援してしまうのが乙女心なのでしょ

うか。また、3年生に至っては、進学する人を除いて、就活の合間をぬっての楽しい一時だったのではないかと思います。

つくば駅周辺は、今年もハロウィンが終わるや否やクリスマスのイルミネーションで彩られていました。今年は、相合傘のイルミネーションもあってびっくり。あれで写真を撮った人がいるのだろうか疑問に思うところ。私的にはRight

onの雪の結晶のイルミネーションがかわいくて素敵です。エキスポセンターのイルミネーションとライトアップされたロケットの組み合わせも捨てがたい。日ごろ乗っている自転車を置いて、イルミネーションを見ながら2人でお散歩するのも、クリスマスの醍醐味の一つかと。



また、クリスマスといえば、やはり、プレゼント交換ですよ。クリスマスの前後に、何を買ってあげよう、だとか、何を買ってもらった、といった話題で大盛り上がりした経験、皆さんにもおありなんじゃないでしょうか。クリスマス前のサークルの集まりでは、男友達が「彼女へのプレゼントのために女物の店入るの恥ずかしかったんだよね」とか「男一人で入るより何人かが入る方がましだったわ」などと恥ずかしがりながらも、嬉しそうに話している姿から、彼女を大切にしている気持ちが伝わってきました。プレゼントを買うとなると、相手のほしいものは何だろうとか好きなものは何だったかなと一生懸命考える。相手の喜ぶ顔が見られると思うと、あげる側まで嬉しくなる。もらった側もそれが何であれ、自分のことを考えながら選んでくれたということに対して幸せな気持ちになる。目に見えるものだけが全てだとは思いませんが、そういった意味で、プレゼントとはまさに二人の思いをつなぐものなのです。普段、言葉や行動で気持ちを表現するのが苦手な人にとっては、絶好の機会に違いありません。

そしてここからは少し余談になるのですが、残念ながらパートナーのいない筑波大生も、クリスマスは大いに楽しんだようです。だいたいの人が親元を離れて一人暮らしをしている中、かけがえのないサークルや研究室の仲間と一緒に手料理やお菓子を囲んで過ごす。誰かの家に集まって他愛もないおしゃべりに夢中になる。目標は「リア充より充実！」といったところでしょうか。

人それぞれ過ごし方は異なるけれど、この聖なる夜に一人でも多くの方が幸せだと実感してほしい。大切な人の存在を再確認し合う日であってほしいと願うものであります。

(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 入田恵津子)

三大イベントとは、『クリスマス』、『バレンタイン』、『誕生日』のことで、確か、何かのマンガに書いてありました。誕生日を思いつかなかった人は、『付き合い始めた記念日』を候補に入れる人も！また、「盆、暮れ、正月じゃないか？」と言う人まで...いやいや違うだろ。

◆ 編集後記

筑波風の吹き荒れる極寒の地から、冬号のお届けです！今回は「ペデジャーなる」初の前後編でお送りいたします。前編はなんだか国際色豊かなラインナップになりましたが、いかがでしたか？つくばから飛び出した筑波大生の日常を楽しんでいただけたなら幸いです。後編もお楽しみに！

暦の上では春とは言え、まだまだ寒い日が続きますね。筑波大学近辺は雪こそあまり降りませんが、冷たい風で耳が千切れそうです。風邪やインフルエンザもまだまだ流行中ですので、OB・OGの皆様もご自愛ください。

◆ 筑波大学 facebook: <https://www.facebook.com/univ.tsukuba.ja>

◆ 編集・発行

「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

◆ デザイン・配信作業

人文・文化学群 日本語・日本文化学類 関崎美久

情報学群 情報メディア創成学類 酒井佑弥

◆ ご意見・問い合わせ先

国立大学法人筑波大学 連携・渉外室

〒305-0821 茨城県つくば市春日1-8-3筑波大学春日プラザ1階

TEL:029-853-2030 FAX:029-853-6576

gakuyu@un.tsukuba.ac.jp

📧 配信停止をご希望の方

下記メールアドレス宛に『配信停止希望』の旨明記し、送信してください。

gakuyu@un.tsukuba.ac.jp

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

Copyright © 2013 University of Tsukuba. All Rights Reserved.

